

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	3/21(月)	3/22(火)	3/23(水)	3/24(木)	3/25(金)
無担保O/N	▲0.080% ~ 0.001%				
銀行券		△300	ト ン	△1,000	△2,000
財政他		+43,100	+3,000	+4,000	+12,000
資金需給		余42,800	余3,000	余3,000	余10,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M, 1Y) 国債発行(5, 10, 20, 30年) 国債償還(5, 10, 20, 変動15年)			
オペ期日	休日	共通担保(全店) △11,200 CP買入 △800 社債買入 △300 国債補充供給 +2,300			共通担保(全店) △8,200
オペスタート		国債買現先 +3,900 共通担保(全店) +4,800 ETF買入 +200	国債買入 +12,600 短国買入 +17,500 CP買入 +5,000		
(日本)		全産業活動指数(1月) 公示地価(2016年)	日銀の布野審議委員講演(神戸市) 営業毎旬報告(3月20日現在)	金融政策決定会合における 主な意見(3/14-15分)	CPI(全国2月、 東京都区部3月) 対外対内証券売買 (前週分)
(海外)	米 中古住宅販売件数(2月)	米 大統領選挙 アリゾナ州予備選(民・共) アイダホ州党員集会(民) ユタ州予備選(民・共)	米 新築住宅販売件数(2月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感(3月速報)	米 新規失業保険申請件数(先週分) 米 耐久財受注(2月) 欧 ECB経済報告	米 10-12月GDP(確定値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 2M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 3M	▲0.08 ~ 0.001
SPOT 6M	▲0.08 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は、週初259兆円台から始まり、その後は国債・短国買入オペや貸出増加支援オペ等の要因で増加し260~262兆円台で推移した。無担保コールON物の加重平均金利は、試し取りが実施された16日(0.002%)を除くと、▲0.002~▲0.003%で推移した。積み終盤の14・15日では、オファーサイドが薄くなる中で、基礎残高に余裕のある金融機関を中心にゼロ%近辺のビッドがやや増加した。財政等要因により余剰感の強い新積み期となる16日以降は、オファーサイドの厚みが増し、ビッドサイドは薄い展開となった。18日には2011年3月30日以来となる国債買現先オペ(5,000億円、3/22-3/23)が実施され、応札6,518億円、落札3,848億円、按分レートは▲0.20%となった。

14-15日に実施された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された他、以下の3点が公表された。①「マクロ加算残高」の見直しを原則として3か月毎に行うこと。②MRFを受託する金融機関の「マクロ加算残高」に、受託残高に相当する額(昨年の受託残高を上限とする)を加えること。③今後「貸出支援基金」および「被災地金融機関支援オペ」の残高を増加させた金融機関については、増加額の2倍の金額を「マクロ加算残高」に加算すること。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	▲0.150 ~ ▲0.070
現先(on/1w)	0.0001 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行額は約5,100億円で、期落ち額約7,300億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。カード会社の複数大型案件の継続発行がなく、償還超となった。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、0.0001%~0.0050%程度で推移した。

来週の期落ち額は約8,700億円程度となっている。

<TDB>

17日に国庫短期証券3M第596回債の入札が行われたが、最高落札レートは▲0.0973%(前回債▲0.0802%)、平均落札レートは▲0.1025%(前回債▲0.0902%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで▲0.11%近辺の出合い。6Mは▲0.16%近辺の地合い、1Yは▲0.22%近辺の地合いであった。来週は24日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは、週初▲0.07%近辺の出合いから始まり、国債買入れオペがオファーされた18日受渡では▲0.10%近辺まで低下した。22日受渡では短国・国債の大量発行のため、▲0.04%~▲0.05%近辺まで上昇したが、週末には約5年ぶりとなる国債買現先オペと計3兆100億円の短国・国債買入れオペの影響もあり、再度▲0.10%台まで低下した。SC取引では、10年340回債はON物で週初▲0.15%~▲0.20%の出合いだったが、週の後半には▲0.50%台までレートが低下した。10年341回債は週を通して▲0.50%台で多く取引された。他では5年債124・125・126回債、10年債339回債に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。